

A. 歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

到達目標	研修内容	必要な症例数	症例数の数え方
1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。	自習、講義による知識の整理 臨床見学研修 臨床研修 レポートの作成	レポート 1	
2. 利他的な態度 患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。		レポート 1	
3. 人間性の尊重 患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。		レポート 1	
4. 自らを高める姿勢 自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。		レポート 1	

B. 資質・能力

到達目標	研修内容	必要な症例数	症例数の数え方
1. 医学・医療における倫理性			
診療、研究、教育に関する倫理的問題を認識し、適切に行動する。			
①人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。	自習、講義による知識の整理 臨床見学研修 臨床研修 レポートの作成	レポート 1	
②患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。			
③倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。			
④利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。			
⑤診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。			
2. 歯科医療の質と安全管理			
患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。			
①医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。	自習、講義による知識の整理 臨床見学研修 臨床研修 レポートの作成	レポート 1	
②日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。			
③医療事故等の予防と事後の対応を行う。			
④歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。			
⑤医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む）を理解し、自らの健康管理に努める。			
3. 医学知識と問題対応能力			
最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。			
①頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。	自習、講義による知識の整理 臨床見学研修 臨床研修 レポートの作成	レポート 1	
②患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。			
③保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。			
④高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。			
4. 診療技術と患者ケア			
臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。			
①患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。	自習、講義による知識の整理 臨床見学研修 臨床研修 レポートの作成	レポート 1	
②診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。			
③患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。			
④診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。			
5. コミュニケーション能力			
患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。			
①適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。	自習、講義による知識の整理 臨床見学研修 臨床研修 レポートの作成	レポート 1	
②患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。			
③患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。			

到達目標	研修内容	必要な症例数	症例数の数え方
6. チーム医療の実践			
医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。			
①歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。	自習、講義による知識の整理 臨床見学研修 臨床研修 レポートの作成	レポート 1	
②多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。			
③医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。			
7. 社会における歯科医療の実践			
医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。			
①健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。	自習、講義による知識の整理 臨床見学研修 臨床研修 レポートの作成	レポート 1	
②地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。			
③予防医療・保健・健康増進に努める。			
④地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。			
⑤災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。			
8. 科学的探究			
医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。			
①医療上の疑問点に対する能力を身につける。	自習、講義による知識の整理 臨床見学研修 臨床研修 レポートの作成	レポート 1	
②科学研究方法を理解し、活用する。			
③臨床研究や治験の意義を理解する。			
9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢			
医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に		学び続ける。	
①急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。	自習、講義による知識の整理 臨床見学研修 臨床研修 レポートの作成	レポート 1	
②同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。			
③国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌等を含む）を把握する。			

C. 基本的診療業務

到達目標	研修内容	必要な症例数	症例数の数え方
1. 基本的診療能力等			
(1)基本的診療・検査・診断・診療計画 初診患者に対し、①～⑥までを一連で実施する。			
①患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。	初診時医療面接、再診時医療面接	20 症例	担当患者一名を 1 症例とする。
②全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診療を実施し、診察所見を解釈する。	口腔内診察、頭頸部診察、各種検査の必要性の診断		
③診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。	エックス線検査、咬合検査、咀嚼能力検査、歯周組織検査の実施と結果の解釈		
④病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。	担当患者の診断に関する口頭試問		
⑤診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。	診療計画に関するカンファレンス参加、プロトコール作成		
⑥必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。	患者への病状説明、インフォームドコンセント、同意書の取得		
(2)基本的臨床技能等			
①歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。	ブラッシング指導、フッ化物歯面塗布	15 症例	実施した診療行為を 1 症例とする。
②一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。 a. 歯の硬組織疾患 b. 歯髄疾患 c. 歯周病 d. 口腔外科疾患 e. 歯質と歯の欠損 f. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下	a. う蝕のコンポジットレジン修復、インレー修復 b. 歯髄保護、抜髄、感染根管治療 c. 歯周基本治療、簡単な歯周外科治療 d. 抜歯、切開、縫合 e. 歯冠修復、欠損補綴 f. 嚥下機能検査、舌圧検査	a. 15 症例 b. 15 症例 c. 15 症例 d. 15 症例 e. 15 症例 f. 3 症例	実施した診療行為を 1 症例とする。

到達目標	研修内容	必要な症例数	症例数の数え方
③基本的な応急処置を実践する。	疼痛、外傷、修復物脱離、義歯破損への対応	15 症例	実施した診療行為を1 症例とする。
④歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。	バイタルサインを測定し、全身状態を評価する。	5 症例	
⑤診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。	担当患者の診療時に適切に実施する。	20 症例	担当患者一名を1 症例とする。
⑥医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。	医療安全 ミーティングに参加する。 診療時事故、ヒヤリハットが発生した場合は医療安全マニュアルに則って対応する。	ミーティング 参加必須 2 症例	万一生じた場合に1 症例とする。 その他、診療室で生じた場合の見学も1 症例とする。
(3) 患者管理			
①歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。	自習(全身疾患の歯科診療上のリスク・服用薬剤の副作用に関する知識) 担当患者へ必要に応じ実施する。	各項目最低 1 症例以上 合わせて 10 症例	担当患者一名を1 症例とする。
②患者の医療情報について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。	自習(医療連携に関する知識) 担当患者の主治の医師へ必要に応じて実施する。		
③全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。	心拍および血圧の状況に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。		
④歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。	自習(BLS の流れ、歯科診療時の主な併発症・偶発症の知識) 担当患者へ必要に応じて実施する。		
(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供			
①妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。	自習・講義 患者のライフステージに応じた予防と口腔機能管理を実践する。	各項目最低 5 症例以上 合わせて 10 症例	担当患者一名を1 症例とする。
②各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。	患者の状態を評価する。 患者の状態に応じた診療を実践する。		
③在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。	在宅患者を訪問し、全身状態を確認しながら歯科診療を実践する。	5 症例	担当患者一名を1 症例とし、 見学した場合も1 症例とする。
2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等			
(1) 歯科専門職間の連携			
①歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。	予防処置、口腔管理について歯科衛生士とケースカンファレンスを行う。 連携を図りながら口腔衛生管理を実践する。	5 症例	歯科衛生士と連携した患者一名を1 症例とする。
②歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。	技工指示書を作成する。 歯科技工士の役割を理解し、連携を図りながら技工物を作製してもらう。	5 症例	装着した技工物を1 症例とする。
③多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。	多職種連携、チーム医療に関する講義、講習会、文献検索を通してレポート作成。	レポート 1	
(2) 多職種連携、地域医療			
①地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。	講義・レポート作成を通して地域包括ケアシステムを理解する。	レポート 1	
②地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。	講義・レポート作成を通して地域包括ケアシステムを理解する。	レポート 1	
③訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。	講義・レポート作成。訪問歯科診療に参加する。	レポート 1	
(3) 地域保健			
①地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。	地域保健・福祉に関する講義を通してレポート作成。	レポート 1	
②保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。	保健所の活動に関する講義を通してレポート作成。	レポート 1	
③歯科健診を経験し、地域住民に対する健康教育を経験する。	学校健診に同行し、経験する。レポート作成。	レポート 1	
(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解			
①医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	法律、法令に関する講義、文献検索を通してレポート作成。	レポート 1	
②医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。	保険診療を実践する。	50 症例	保険診療を行い電子カルテへの入力を行った場合を1 症例とする。